marvelous

MaxMara

TOKYO 2013

MARVELOUS MAX MARA TOKYO 2013

東京、2013 年 11 月 5 日－2011 年、モスクワで開催されたブランド誕生 60 周年イベント、2012 年、香港で行われたマルチメディアを融合させたプレゼンテーションに続き、マックスマーラは次なるグローバルイベントとして、このたび、ここ東京を舞台に、日本上陸 25 周年を記念する「Marvelous Max Mara Tokyo 2013」を開催いたします。

マックスマーラグループは、1989 年に日本に進出。1990 年に東京の中心地である六本木に 1 号店をオープンしました。現在、グループが日本で展開するショップは 149 店、そのうち 65 店がマックスマーラのショップです。
この大規模なイベントは、アニバーサリーを祝す目的だけではなく、多くの方に本物のマックスマーラを体験していただけるような機会を通して、ブランドの日本市場における確固たる位置づけと長い歴史を表現するものです。

「Marvelous Max Mara Tokyo 2013」は日本上陸 25 周年を記念するイベントですが、その中心となるのは銀座三丁目にあるフラッグシップショップのリオープンです。450 ㎡と日本最大規模を誇る歴史あるショップが、オープンから 10 年を経てリニューアルされました。ドゥッチョ・グラッシ・アーキテクツ設計による最新のコンセプトを軸に、内装だけではなく外装までをも一新。今後、同コンセプトは、世界各国のマックスマーラ主要店舗でも徐々に採用していきます。
銀座三丁目店で特に目をひくのが、インパクトのある外観のデザイン。軽量金属素材がガラス張りのビルをまるで光の膜のように包みこみ、明るく風通しのよい印象を与えます。これには外装では建物の量感を強調しつつも、内装ではブライトカラーの木材などを使用し、温かみのある天然素材や光沢のある金属を使用したインテリアを透けて見せるという 2 つの目的があります。白いポーチが特徴的なエントランスでは、2 つの大きなスクリーンがディスプレイされ、イメージとサウンドでブランドを表現します。

「Marvelous Max Mara Tokyo 2013」では、11 月 5 日に大規模なファッションショーを開催します。イタリアを代表するラグジュアリーブランドであるマックスマーラによる、日本初のこのステージには、日本のプレスや各界の著名人、セレブリティ、VIP、厳選された国際的なジャーナリストを含む 1,000 人以上のゲストが招待されます。
日本の伝統的な競技である相撲の聖地、両国国技館を会場に選びました。国技館の初竣工は 1909 年。現在の両国国技館はその跡地に建設され、約 13,000 人の観客を収容できます。今回、この場所が洗練されたスペースに姿を変え、ショー会場となります。続いて、UK からシンガーのパロマ・フェイス（Paloma Faith）が初来日し、スペシャルプライベートライブを行います。その後同スペースにて、DJ ミュージックとともに、スペシャルパーティーをお楽しみ頂きます。

パロマ・フェイスは、ブルースとジャズの魂を持つシンガーであり、女優であり、パフォーマーでもあります。
ロンドンのソーホーにあるクラブで活動をスタート。「魂の女性」と呼ぶにふさわしいフェミニンで洗練された現代のビリー・ホリデイとして、1940 年代に煌めきを与えています。
「Fall to Grace」と「Do You Want the Truth or Something Beautiful?」の 2 つのプラチナアルバムにより、世界的な名声を獲得しました。

marvelous

MaxMara

TOKYO 2013

MARVELOUS MAX MARA TOKYO 2013

FASHION SHOW

ショーの冒頭を飾るのは、2014 年リゾートから選り抜かれたルック。続いてミラノコレクションで発表された 2014 年春夏コレクションの代表的なアウトフィット、終盤にはマックスマーラ“エレガンテ”コレクションのカクテルドレスとパーティードレスが登場します。３つのパートで構成されたこのショーは、それぞれの異なるムード、トレンド、インスピレーションをテーマにしている一方で、全体を通して変わらない一貫性とマックスマーラの証であるエレガンスを見事に表現しています。

第 1 部：春の訪れを感じるシーズンに向けた序曲 2014 年リゾート コレクションは、今年初演 100 周年を迎え、セルゲイ・ディアギレフのロシアバレエ団上演による名作「春の祭典」（イーゴリ・ストラヴィンスキー作曲）をイメージさせるコレクションとなっています。マックスマーラは、ニコライ・リョーリフの舞台デザインにインスピレーションを得て、伝統と革新を融合した独自のスタイル哲学をもって、クラシックなルックを興奮に満ちた最先端のファッションの旅に連れ出します。
そしてそれらをふるいにかけ、それらに新鮮な趣きを与え、ケープ、レイヤードチュニック、レイヤリング、（同作品に特にインスピレーションを与えたと言われる）マティスの「La Danse」を彷彿させる色使いを完成。
アーバンスタイルを基本とする、現代的なアウトフィットにアレンジしました。

第 2 部：クラシックとアバンギャルドの出会い。マックスマーラ 2014 年春夏コレクションは、ニューヨークのアートシーンにインスパイアされた、ある種の新ミニマリストのエレガンスに改めて注目します。その姿勢が顕著に表現されているのが、ソーホーの屋根裏部屋の開放的な明るさを完全に再現したアウトフィットや、ロバート・ライマンの作品を思わせる筆書きとニュアンス感覚のオリジナルデニムアイテム。頭からつま先までモノクロのルックでは、ジャケットからアクセサリーまですべてを完璧にコーディネートし、トータルをドレッシーに演出しました。

第 3 部：イブニングライン“エレガンテ”による、ブラック、ホワイト、リキッドゴールドのドレープの入ったビスチェドレス、イブニングジャンプスーツ、ブラウス、そして非常に洗練されたクロップドパンツが特徴的なタキシードが登場し、センターステージを飾ります。グランドフィナーレが近づくと、ステージは再び、マティス、ディアギレフ、ウォーホルのカラーに。印象的な後期ロマン派の万華鏡で、東洋と西洋のテイスト見事にマッチしています。

Marvelous Max Mara.

Make-up by: Mariko Tagayashi and the M·A·C PRO TEAM

Hair created by Peter Gray for MOROCCANOIL

本件に関するお問い合わせ先：マックスマーラ ジャパン　TEL03-5467-3707